

見て、聞いて、 建築を感じる

実行委員長 山梨知彦 [日建設計]

実行委員 今村水紀 [imiCo]/奥村俊慈 [ケミカルデザイン]/小堀哲夫 [小堀哲夫建築設計]

塚田修大 [塚田修大建築設計]/早川慶太 [早川建築計画]/干場弓子 [studio B05]

前田道雄 [アーキプロ]/三浦洋介 [久米設計]/森清敏 [MDS]

<http://www.jia.or.jp/kanto/seminar/index.htm>



山梨知彦 Tomohiko YAMANASHI

東京藝術大学美術学部建築科卒業

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了

1986 株式会社日建設計入社

現在 株式会社日建設計常務執行役員

建築好きにとっても、建築家にとっても、リアルな建築との出会いは、最大の楽しみ。持てる五感を生かし、建築を見て、撫でまわすように触れ、嗅ぎまわるように歩き回り、耳を澄まし、そして味わうことは、建築を学ぶ上の原点であることは疑いがないところでしょう。

一方で建築は、それをつくりあげた建築家の、エンジニアの、施工者の、そしてクライアントの知的営みの結果でもあります。したがって、建築の誕生に携わった人々の言葉に耳を傾け、観念的に建築を捉えることも、同じく建築を味わい学ぶ上で欠くことのできないもう一つ視点だと思えます。

この二つは「野性と理性」もしくは「感性と知性」のように、建築を学ぶ上で対立したものの捉え方も受け取れがちです。しかし、人間をはじめとした生物がどんなに進化し理性的になったとしてもどこかになにがしかの野生を秘めているように、理性無き野性も野性無き理性も存在することが困難なように、野性と理性とをつなぐ一つづきの何かの中にこそ、人間性は横たわっているようにと思えてなりません。

建築もまた、感性による建築と知性による建築とが対立して存在するわけではなく、あらゆる建築が感性と知性とをつなぐ一続きの何かの中で生み出されているのではないのでしょうか。

そんな思いから、今年度のJIA建築セミナーのテーマは、「見て、聞いて、建築を感じる」としました。一つの建築を見学して、さらに関係者に話をうかがうという二重構造を原則として、一つの対象を理性と感性、あるいは野性と理性のいかなるバランスの中からその建築が生み出されたかを感じることで、建築を学んでいけたら楽しいだろうと考えています。

JIA建築セミナー趣意書

人の生きる環境の形を決める建築家は、常にその社会的責任に対する意識を新たにし、技量の継続的向上に努めなければなりません。建築家とは、「なる」ものではなく、むしろ「なり続ける」努力によって成立する職能なのです。

私たち、日本建築家協会の使命の一つは、会員相互の交流と切磋琢磨をつうじて、こうした自己研鑽の機会を広げることにあります。そうした機会は、会員にはもちろんのこと、未だ会員になっていない若い方々に対しても開かれなければなりません。

現在の日本の建築教育はほとんど大学に任されており、また、その期間が限られているためあって、建

築家としての意識と見識を養うためには、甚だ不十分な域にとどまっています。そして、そこに学んだ若者が卒業して一旦社会に出ると、自己研鑽を積み続ける機会に恵まれないのが通例です。

そうした状況に鑑み、私たちは会員及び会を支援して下さる各界の知的リーダーたちの蓄積を、建築家への道を歩み始めた若い方々に受け渡し、建築家に「なり続ける」機会の一つを提供するために「JIA建築セミナー」を開設しました。

このセミナーは、1978年以降の歴史を誇っております。39年目にあたる2016年度も、長年の間に培われた良き伝統を受け継ぎつつも、時代の状況に応じた新風を織り込んでセミナーが開催されますので、一層のご理解とご鞭撻をお願いいたします。

JIA建築セミナー2016 | スケジュール | 2016年6月25日 - 2017年2月(予定)

開講+PROJECT1 巨匠が生み出した今を生きる名建築

2020年東京オリンピックに向けた動きが活発化するなか、半世紀を過ぎた今もなお多くの人を惹きつけてやまない国立代々木競技場体育館(円内健二設計)。一つの名作が生まれるために必要であった建築家とエンジニアの情熱と思考がどのような形で統合されていったかを川口衛氏をお招きし、聞き、見て、学びます。

01 6月25日[土]13:00- | 「感性と知性で生み出されたレガシー(仮)」 | 対談:川口衛[建築構造家]+山梨知彦[建築家、日建設計]

02 7月13日[水] | 「国立代々木競技場(代々木体育館)の見学」 | 「川口衛氏が案内する代々木体育館の今」

PROJECT2 大人のアドベンチャー:大谷石探石場を巡る

「地底探検、誰でも子供の頃に一度は憧れたことがあるはず。栃木県宇都宮市大谷地域には大谷石が切り出されてきた広大な地下空間が存在します。そんな地下空間を子供に戻って探検してみませんか。大谷石が削り取られてきた荒々しく力強い空間。建築家がつくったものとはまた別の空間の力を感じさせてくれます。大谷石は私たちにとって馴染み深い建築素材ですが、「もの」として生の大谷石に触れることで、大谷石の新しい魅力を発見してください。後半は宇都宮大学准教授の安森亮雄氏に同行していただき、市内の大谷石の建物を見学しながら大谷石と建築について解説していただきます。

03 7月17日[日] | 「大谷石探石場および大谷石建築見学ツアー」 | 解説:安森亮雄[宇都宮大学准教授]

PROJECT3 AIと人がつくりだす未来の環境

人工知能/AIはディープラーニングにより大きく能力を上げ、人間を上回るにはまだ10年ほどかかると思われていた囲碁で人間の世界チャンピオンに勝利しました。そして人工知能は環境のコントロールや人とのコミュニケーションなど、すでに私たちの生活に入り込んできています。著書「人工知能は私たちを滅ぼすのか」(2016年発行、講談社現代新書)のなかでAIが普及した世界を描いた児玉哲彦氏に、AIが建築・都市・環境にもたらすものをお聞きし、建築がAI化される未来を想定した試みとして、UXデザイナー・開発者である藤村憲之氏と建築を擬人化するワークショップを体験します。

04 8月9日[火]19:00- | 「AIは環境デザインに何をもたらすのか:モダニズムの真の終焉」 | 対談:児玉哲彦[IT製品開発マネージャー]+山梨知彦[建築家、日建設計]

05 8月(日程調整中) | 「もし建築が話し出したら:環境の擬人化の試み」 | ワークショップ:藤村憲之[アーティスト、デザイナー、研究者]

PROJECT4 ヴェネツィア・ビエンナーレ国際建築展と現在

チリのアレハンドロ・アラヴェナが総合ディレクターを務める2016年5月28日-11月27日まで開催のヴェネツィア・ビエンナーレの総合テーマは「Reporting from the Front」。日本館のキュレーターの名善之氏は、「en[緑]:アート・オブ・ネクサス」をテーマに12組の若手建築家の作品を取り上げて展示を行った。今年度含め、過去の国際建築展に多数参加している建築家の塚本由晴氏を迎え、山名氏との対談、日本館出展の建築家達との座談会を通して、現在の建築の最前線について考えてみます。

06 9月21日[水]19:00- | 「ヴェネツィア・ビエンナーレの意味と意義、そして今回の意図(仮)」 | 対談:塚本由晴[建築家、アトリエ・ワン、東京工業大学大学院教授]+山名善之[建築家、東京理科大学教授、日本館キュレーター]

07 10月1日[土]17:00- | 「ヴェネツィア・ビエンナーレ出展作品と現在の建築について(仮)」 | 座談:塚本由晴+参加建築家達(調整中)

PROJECT5 伝統の先にあるもの——木造建築の未来

人間の技術は木で始まり木のスケールを超えることは出来ないと言語のは、戦後から60年一貫して木造を手掛けてきた杉坂智男氏。新たな木造の可能性に注目が集まる今だからこそ、杉坂氏をお招きして伝統木造の先にあるものについて考えます。また森林が人に与える癒しの効果を研究している森林医学が注目されています。森林医学、自然セラピー研究の第一人者・宮崎良文氏とその森林医学を住宅に取り込む試みをされている建築家・落合俊也氏をお招きして、木造住宅の最前線に迫ります。森林の見学も通じて五感で木を感じてみたいと思います。

08 9月(日程調整中) | 「杉坂智男の木造建築」 | 杉坂アトリエにて対談:杉坂智男[建築家、杉坂建築事務所初代代表]+落合俊也[建築家、森林・環境建築研所]

09 11月(日程調整中) | 「森林医学が住まいを変える」 | 対談:宮崎良文[医学博士、千葉大学教授]+落合俊也

10 11月(日程調整中) | 「落合邸&森林の新月葉枯らし乾燥所」の見学(八王子の野趣溢れる蒲田鳥山にて懇親の予定)

PROJECT6 建築家は自邸に何を託すか?

建築家の自邸は、設計する者自身が建主であるという特別なもの。建築家の室伏次郎氏と野沢正光氏にそれぞれの「自邸に込めた思い」をお聞きし、見学させていただきます。ここで、住宅とは何か?を改めて考えます。

11 11月(日程調整中) | 「自邸に込めたい思い——1」 | 室伏次郎[建築家、スタジオ・アルテック]

12 11月(日程調整中) | 「北嶺町の家(室伏次郎氏の自邸)」見学

13 11月(日程調整中) | 「自邸に込めたい思い——2」 | 野沢正光[建築家、野沢正光建築工房]

14 11月(日程調整中) | 「相模原の住宅(野沢正光氏の自邸)」見学

PROJECT7 根ざす建築

建築が地域に根づくために何ができるか? 使い手、つくり手、まちを経営するという視点から読み解きます。建築家の藤村龍至さんと共に最前線で試行錯誤する事例を見学し、その可能性について議論します。

15 12月3日[土] | 「HAGISO, hanare」(宮崎見吉設計)、「中央線高架下プロジェクト」(古澤大輔設計)の見学

16 12月3日[土] | 「建築やまちを使いこなす」 | 座談:藤村龍至[建築家、東京藝術大学准教授、RFA主宰]+宮崎見吉[建築家、HAGISTUDIO]+古澤大輔[建築家、リライト_D_代表、日本大学理工学部専任助教]

17 12月10日[土] | 「メゾン青樹ロイヤルアネックス他」(大家/青木純)、「食堂付きアパート」(仲俊治設計)の見学

18 12月10日[土] | 「大家・建築・地域」 | 座談:藤村龍至+青木純[大家、メゾン青樹]+仲俊治[建築家、仲建築設計スタジオ]

PROJECT8 日本を飛び出す若き建築家達

日本をはなれて、海外で活躍する若き建築家にフォーカスし、プロジェクト紹介を通じて今世界は建築に何を求めているのかをお話いただけます。阿吽の「感性」伝達ができない海外で、建築に込められた「感性」は、クライアントとどのように共有されていくのか。建築を説明する「知性」は、どのように積み上げられていくのか。国境と文化を超えて果敢に挑む勇者たちのストラグルに迫ります。

19 2017年1月(日程調整中) | 「ヨーロッパで進行する最新プロジェクト(案)」 | 楠寛子[建築家、モロクスノキ建築設計]

20 1月(日程調整中) | 「カンパ・ノウ国際設計コンペを通じて(案)」 | 勝矢武之[建築家、日建設計]

21 1月(日程調整中) | 「ニューヨークから世界へ——OMAの遺伝子とこれからの展望(案)」 | 重松象平[建築家、OMA-NY事務所代表]

PROJECT9 茶碗師が茶室を作った

千家(表千家・裏千家・武者小路千家)十職の一つ。楽焼の茶碗を作る樂家の現在の当主、15代樂吉左衛門氏(1949年-、1980年襲名)は、1998年にオープンした佐川美術館(竹中工務店設計・施工)に「茶室を作った。」(2009年発行、淡交社)その後、『ちやわんや:二人の息子と若い人々へ』(2012年、淡交社)を著している。氏をお招きし、自ら設計した茶室の意味と意図を伺い、茶室空間を体験します。伝統と前衛を行き交う創造者の原点を若い設計者に伝えます。

22 1月21日[土] | 「茶室を作った」 | 15代樂吉左衛門

23 1月21日[土] | 佐川美術館の見学

24 1月22日[日] | 京都近郊の見学を企画中

JIA建築セミナー2016 | 募集案内 | 2016年6月25日 - 2017年2月(予定)開催 CPD申請中

定員 40名

受講資格 当セミナーに興味のある方、若手設計者ほか

講習期間 2016年6月25日-2017年2月(予定)

見学会等の集合場所・時間ほかは、追ってお知らせします。

会場 JIA館(原則)

住所:東京都渋谷区神宮前2-3-18 | TEL: 03-3408-8291

交通:地下鉄銀座線外苑前駅 徒歩8分/JR千駄ヶ谷駅 徒歩10分/JR原宿駅 徒歩12分

受講料 一括払い:140,000円(分納、ご相談承ります)

見学・宿泊等の交通費、食費等は実費となります。見学以外の講座では、原則、講師と受講生との交流のために各回1コイン(500円)の懇親会を開催しています。お時間の許す方

は、ご参加下さい。

申込方法 受講希望者は氏名・住所・連絡先(TEL/FAX/E-mail)を明記し、事務局までFAXか、郵送にてお申込下さい。追って、ご連絡いたします。

なお、都合により変更になる講座もありますので、予めご承知置き下さい。

主催 公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部

企画運営 公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部 JIA 建築セミナー実行委員会 JIA 建築セミナー事務局(担当:佐藤由巳子)

申込・問合せ先 公益社団法人 日本建築家協会関東甲信越支部 JIA 建築セミナー事務局 〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-3-18 JIA館4階

TEL: 03-3408-8291 | FAX: 03-3408-8294